

「緑のカーテンは、板七小から、地域へと広がっていきました。そうすればやがては地域から他の地域にも広がって地球を守ることができると思いました。」6年 谷垣竣介さん

Think Globally , Act Locally ー世界の合言葉 ー地球規模で考え・地域を変えていく 板橋第七小の子どもたちー

5年前から、緑のカーテンに取り組み、昨年と今年で、緑から学ぶ研究をまとめ、9月19日に板橋区研究奨励校の研究発表をした板橋区立板橋第七小学校。

葉の緑が鮮やかに、勢いを止めない緑のカーテンに包まれた教室で、さわやかに各学年の授業が公開されました。(SOE 学生スタッフは4年生の《みそづくり》を応援)

…2ページへつづく…



板橋区立板橋第七小学校、校舎の見事な緑のカーテン



いざ出発、第五回沖縄エコツアー、今年も男性も多い！

沖縄エコツアー 2008

文：白石雄貴(伊人)
佐藤佳苗(日ノ子)

備瀬の海で、砂浜植樹とゴミ拾い

“ハチドリ”の1しずく”のお話を皆さん知っていますか。森で山火事が起きた時、他の鳥たちがばかにする中で、ハチドリだけはただ1羽、口ばしに水を含み山火事を消そうとするお話です。「そんなのムダなことだよ」と、他の鳥たちは言います。本当にムダなことでしょうか。

2008年9月4日。寺田先生はじめ、20名の学生が第5回沖縄エコツアーへ出発しました。今年も珊瑚観察・ゴミ拾いに加え、現地の方に踊りを習ったり、緑をふやすため植樹を行いました。エコツアー初日。まずは空港にて自己紹介から。その後長い空の旅を終え、いよいよ沖縄、那覇空港到着です。「わー沖縄に着いたー。」最初は、空港にて沖縄自慢のソーキそばを食べました。ソーキとは、沖縄で一般的に豚のあばら肉を指します。あちこちでおいしい！という声が上がります。

…3ページへつづく…



研究会成功を目指して、植松校長、ナチュラリスト藤本和典さん、SOE理事・寺田(左から)



育てた大豆から味噌を作ったよ 4年生

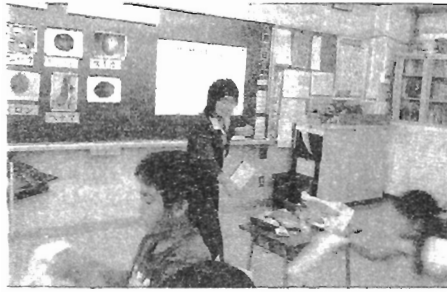


緑のカーテンを伝えよう5・6年生



体験的に語るシンポジストた

この研究では、地球環境を捉えるために、なにより身近な植物に親しみ、遊ぶことから始めました。そして、土にさわり、土壌をよくする方法を学び、太陽の働きに気づき、植物の種から命の



ゴーヤの種を味わってみる3年生



あさがおのたたき染め1年生の授業



種から種へ命の連鎖を学ぶ 3年の掲示

板七小の大きな緑のカーテンは、学校でできる環境教育の一つの金字塔を打ち立てたのではないのでしょうか。板橋区には、環境教育カリキュラムと環境教育プログラムがあります。たくさんさんの学校や地域で、いろいろな環境学習が花開いていくと確信しています。

—予想より早く悪化していく地球の病氣—

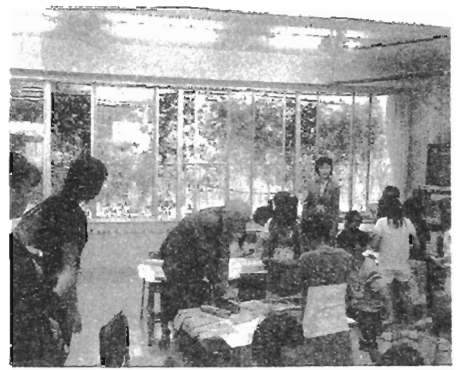
ドイツは世界で最も早く、環境教育を1971年から始め、育った世代が1980年代に起きた、酸性雨による50%以上の森林の枯死と被害、ダイオキシン汚染等に敏感に反応した。経済成長優先だった政策を国が大きく変えて、「循環経済・廃棄物法」を制定し、猛毒のダイオキシン発生を4グラムまで減らした(日本は1988年当時2,900グラム以上)。ダイオキシン対策でゴミ焼却炉は53基(1999年)に減らしリサイクルを徹底した。(日本は世界の都市の焼却炉数の7割、1,900基を持ち、現在、焼却中心の考え)

つながりを考え、自然の恵みの食べ物を工夫して生かし、自然への感謝と自然の維持の大切さを学んで、緑のカーテンを作り上げ、今の地球環境が抱えている深刻な問題—温暖化防止などに迫っていきました。大切にしたのは、栽培の体験を通して自分で感じとること—五感を揺さぶる授業です。子どもは自分の感動から、知的な関心が育ち、課題を追求し理解が深まり、行動の選択へと進みます。

同時に、大切にしたこと一人との関わりです。かかわる力が育って初めて、思いやりも深まっていきます。自然との共生とは、まず、人間同士の共生なしにできません。

これらの取組みの原動力が、34,000の幼稚園と学校で行われてきた環境教育であるといわれている。『環境先進国ドイツを知る①「こうして・・・森と緑は守られた」 川名英之 著』ドイツより30年近く遅れた日本ではあるが、今より早いときはないのである。

「緑のカーテンをつくるということは小さなことだけど、地球にとってはとてもよいことだと知り、自分たちの緑のカーテンも成功させて、温暖化を防いでいこうと思いました。」
6年 真藤万彩さん



緑のカーテンに包まれて学習する子どもたち

…▶1 ページからのつづき…

沖縄エコツアー 2008

さぁお腹もふくれた所で目的地へ出発。私たちが目指すのは、備瀬という村です。沖縄の片隅でひっそりと息をし、自然が手付かずのまま残されている場所です。那覇空港から車で約2時間。その間、ふと誰かが島唄を歌ったのをきっかけに、なぜか合唱大会になった車や、地元の若者の大城さんのガイドに真剣に耳を傾けた車も。

美ら海水族館近くの小さなホテルに到着。この日は備瀬の区長さんに挨拶。「沖縄って、ゆっくり時間が流れている!!」部屋から見えた夕日は東京と違って、すごく綺麗!



新しい備瀬地区の区長に参加者全員でごあいさつ



今年も海岸をみんなでゴミ拾い、きれいになったよ。

2日目。午前中は海岸のゴミ拾いをしました。草むらにこっそり捨ててあるゴミ。海の崖に溜まったゴミ溜め。少し目をやればあちこちにゴミが。——その状況を目の当たりにし、改めて「ゴミを捨てる」行為を皆で考えました。“あの綺麗な海を目の前にして、どうしてゴミを捨てられるの” “見つからなければ捨ててもいいと思っている” という意見が上がります。

その日のお昼は、公民館にて区長さんや現地の方々とゴーヤチャンプル・沖縄そば作りです。「苦味をとるためにね、ゴーヤを塩もみするんさ」協力して作った30人分の出来たての料理を、現地の方々とお慶いっばい頂きました。

お昼のひととき。
SOEのエコツアーは
地元の皆さんとの交流が基本。





みんなでシュノーケリング。海は青く、きれいな魚もフレンドリイだった!

午後、水着に着替えて海へ! 「うわー海だー! 見てみて透き通ってる!」 「シュノーケル付けて、せーの!」 水の中に潜ると、珊瑚と熱帯魚の世界。顔を上げると、絵葉書のような綺麗な海が。これぞ沖縄! 足をつついてくる魚がいたり、不思議な形の珊瑚を見たり。本当に綺麗だ。

この日の夜は、公民館で地元の名踊りの名人宇茂佐さんに「フクギの里に〜♪」と備瀬



の踊りを教わりました。今年は4年に一度の伝統文化豊かな「豊年祭」の年。練習も少し見学できました。

…ツアー後半は次号に掲載予定…

● S.O.E. 活動報告(2008年8・9月)

日 曜 内 容

8月		
1~	金	第5回沖縄エコツアー準備事務作業
12	火	同、送金業務
13	水	ネイチャーゲーム指導者講座 準備・参加者確認作業
~16	土	同 前日準備
17	日	センスオブアース主催 第1回ネイチャーゲーム指導者講座第一日目 (9:00~17:00) 於エコポリスセンター
27	水	第4回環境教育プログラム部会出席一新プログラム検討 ーグリーンホール
30	土	ネイチャーゲーム指導者講座第二日目 (9:00~17:00) 於エコポリスセンター
31	日	ネイチャーゲーム指導者講座第三日目 (9:00~17:00) 於エコポリスセンター
9月		
4	木	第5回沖縄エコツアー主催 実施 3泊4日 沖縄県備瀬 参加者20名
~7	日	現地の人と交流ー料理教室、備瀬フクギ音頭・ 海岸ゴミ拾い・マリンスポーツーカヌー、シュノーケリング、遊泳、魚と遊ぶ、美ら水族館見学など
8	月	第5回環境教育プログラム部会出席ー実証授業計画検討 ーグリーンホール
12	金	板橋区子育て講座講師(寺田) ー赤塚地域センター
13	土	板橋の湧水・地下水見学学習会参加ー赤塚5丁目集会所ー水とみどりの会主催
14	日	センスオブアースニュース発行作業 2,400部発送
19	金	板橋区立板橋第七小学校研究奨励会研究発表会講師寺田、藤本和典氏、学生スタッフ授業支援四名で参加
20	土	板橋区子育て講座講師(寺田) ー赤塚地域センター
24	水	環境教育出前授業の件で学校へ連絡
28	日	環境教育プログラムのワークショップー学生たちと低学年、中、高学年の内容を検討

今年もやります。(((※))) 荒川クリーンエイド2008

10月26日(日)10時~13時半(雨天中止)

集合場所: 荒川・いたばし自然生態園前

実施団体: いたばし野鳥クラブほか

軍手、タオル、お椀、箸、コップ、飲み物持参
(軽食を用意しています)

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp